

# 中学校美術科

## 1 改訂の趣旨

- 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わわせ美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かに働かせて美術の基礎的能力を伸ばし、生活の中の美術の働きや美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養うことを重視して、次のような改善を図っている。

## 2 改訂の要点

### (1) 目標

#### ア 教科目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

改正教育基本法の目標に伝統や文化を尊重する態度を養うことが新たに規定され、「美術文化についての理解を深め」が加わり、一層重視していく。

#### イ 学年の目標

- (1) 関心や意欲、態度に関する目標
- (2) 表現に関する目標(発想や構想の能力、創造的な技能)
- (3) 鑑賞に関する目標

第1学年では、特に表現及び鑑賞の基礎となる資質や能力の定着を図ることを重視し、第2学年及び第3学年においては、第1学年で身に付けた資質や能力を更に深めたり、柔軟に活用したりして、創造活動の能力をより豊かに高めるように構成してある。

### (2) 内容

#### ア 内容の改善とポイント解説(次ページ【資料】参照)

#### イ 表現領域の改善

表現領域を育成する能力や資質で整理し、創造的な技能に関する(3)を新設する。

#### 平成10年告示学習指導要領

- (1) 絵や彫刻などに表現する活動  
感じ取ったことや考えたことを基に形、色彩、材料を使い表現する力  
【発想や構想の能力】【創造的な技能】
- (2) デザインや工芸などに表現する活動  
伝える、使うなどの目的や機能を考え、形、色彩、材料を使い表現する力  
【発想や構想の能力】【創造的な技能】

整理

#### 平成20年告示学習指導要領

- (1) 感じ取ったことや考えたことを基に発想や構想する力  
【発想や構想の能力】
- (2) 伝える、使うなどの目的や機能を考え、発想や構想する力  
【発想や構想の能力】
- (3) 形、色彩、材料を使い、描いたりつくったりする活動  
【創造的な技能】

#### イ 鑑賞領域の改善

鑑賞領域で美術文化に対する関心を深める学習を新設する。

我が国の美術の学習を重視し、第1学年に「美術文化に対する関心を高める」学習を示し、3年間で系統的に美術文化の学習が図られるようにしている。

作品などに対する思いや考えを説明し合う学習など、言語活動の充実を図る。

自分なりの意味や価値をつくりだしていく学習を重視し、第1学年に「作品などに対する思いや考えを説明し合う」学習を取り入れ、3年間で説明し合ったり批評し合ったりするなどの言語活動の充実が図られるようにしている。

#### ウ 【共通事項】の新設

表現および鑑賞の各活動において共通に必要な資質や能力を【共通事項】として示す

表現及び鑑賞の各活動において、共通に必要な資質や能力を【共通事項】として示す。【共通事項】は、「A表現」及び「B鑑賞」の学習を通して指導し、形や色彩、材料などの性質や、それらがもたらす感情を理解したり、対象のイメージをとらえたりするなどの資質や能力が十分発揮されるようにする。

#### エ 表現形式などの違い

スケッチや映像メディア、漫画、イラストレーションなどはまとめて配慮事項に示す。

スケッチや映像メディア、漫画、イラストレーションなどは、生徒が学習経験や能力、発達特性等の実態を踏まえ、自分の表現意図に合う表現形式や表現方法などを選択し創意工夫して表現できるように配慮事項に示されている。

### 3 新学習指導要領全面実施に向けた授業づくり

- (1) 描く活動とつくる活動のいずれも経験させる  
 ア 第1学年はすべて、第2・3学年は各学年で(1)及び(2)と、描く活動とつくる活動の一度は行い、2年間ですべてを扱う。  
 イ 第1学年では、画面の大きさや時間数に配慮する。
- (2) 鑑賞の授業の一層の充実を図る  
 ア 鑑賞の授業時数の確保  
 イ 鑑賞題材として、日本および諸外国の生徒作品、アジアの文化遺産などを取り上げる。  
 ウ 美術館・博物館等を活用し、実物の鑑賞や作家や学芸員と連携し多様な鑑賞体験の場を設定する。
- (3) [共通事項]が表現及び鑑賞の各活動において十分な指導が行われるよう工夫する  
 ア [共通事項]をどの場面で指導するのかを明確にし、指導計画の中に位置付ける。  
 イ [共通事項]の視点で指導を見直し学習過程を工夫する。  
 ウ 生徒自らが必要性を感じて[共通事項]の視点を意識できるような題材を工夫する。

「A表現」の指導計画の作成例Ⅰ

| 学年   | 表現(1)と(3) |     | 表現(2)と(3) |     |
|------|-----------|-----|-----------|-----|
|      | 描く        | つくる | 描く        | つくる |
| 第1学年 | ○         | ○   | ○         | ○   |
| 第2学年 | ○         | ○   | ○         | ○   |
| 第3学年 | ○         | ○   | ○         | ○   |

「A表現」の指導計画の作成例Ⅱ(第1学年は同じ)

| 学年   | 表現(1)と(3) |     | 表現(2)と(3) |     |
|------|-----------|-----|-----------|-----|
|      | 描く        | つくる | 描く        | つくる |
| 第1学年 | ○         | ○   | ○         | ○   |
| 第2学年 | ○         | ○   | ○         | ○   |
| 第3学年 | ○         | ○   | ○         | ○   |

### 4 移行措置

平成21年度から平成23年度までの美術の指導に当たっては、可能な限り新しい学習指導要領での指導に取り組むとともに、現行学習指導要領により取り組む場合も、新学習指導要領を参考に育成する資質や能力を明確にして指導すること。

#### [資料] 内容の改善とポイント解説

|        |  | 第1学年  | 第2学年及び第3学年   |  |
|--------|--|---|--|--|
| 領域     | A<br>表<br>現                                | (1) 感じ取ったことや考えたことを基にした発想や構想                                   |  | (1)は、自己の内面を見つめ、価値観を構築していく思春期の中学生にとって重要な学習です。   |
|        |  | ア 主題の生成<br>イ 主題などを基にした表現の構想<br>(アとイの順序は固定されていない)              |  | 生徒自らが自分の表したい主題を生み出し、その主題を表現するために、形や色彩、材料などの特性を生かしながら構想を練ります。「○○な感じの○○」のように、生徒の様々な表現のよさや工夫がしっかり生かせる題材設定が大切です。   |
|        |  | (2) 伝える、使うなどの目的や機能を考えた発想や構想                                   |  | (2)は、身の回りのものや相手から社会や多くの他者を対象として、見る人や使う人の立場に立って、美しさ、分かりやすさ、使いやすさなどを考えた学習の発想や構想の内容です。                            |
|        | B<br>鑑<br>賞                                | ア 構成や装飾を考えた発想や構想<br>イ 伝達を考えた発想や構想<br>ウ 用途や機能などを考えた発想や構想       |  | 他者に対して、形や色彩、材料などを用いて自分の表現意図を分かりやすく美しく伝達したり、使いやすさなどの工夫が他者に受け止められるようにしたりすることが大切です。                               |
|        |  | (3) 発想や構想をしたことなどを基に表現する技能                                     |  | (3)を独立させることにより、多様な題材にも一層柔軟に取り組めるようになりました。  |
|        |  | ア 創意工夫して表現する技能<br>イ 見通しをもって表現する技能<br>(アは全ての題材で、イはねらいに応じて指導する) |  | 生徒の創造的な技能の伸張を図るため、表現方法を選択したり、試行錯誤しながら創意工夫したりする場面を意図的に位置付け、発想や構想の能力と、表現する技能とを関連付けながら指導するようにしましょう。(第4章1-(3)にも掲載) |
| 〔共通事項〕 | (1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して指導                  |   | (1)は、単に知識や作品の定まった価値を学ぶだけでなく、自分の中に新しい価値をつくりだす創造的な学習です。  |  |
|        | ア 形や色彩などの性質や、それらがもたらす感情の理解<br>イ 対象のイメージの把握 |   | ・美術文化の継承・創造への関心を高めましょう<br>・生活や環境の中の造形のよさや美しさを感じ取らせ、生活を美しく豊かにする造形や美術の働きを実感させましょう。<br>・ねらいに合わせ鑑賞する効果的な対象を選択しましょう<br>・言語活動を充実させ、感じ取る力や思考する力を一層豊かに育てましょう。<br>・表現と鑑賞の関連を図りましょう。(第4章1-(1)にも掲載) |  |
|        |  |   |  | [共通事項]を、表現や鑑賞の学習の中に適切に位置付けて繰り返し指導することが大切です。(第4章1-(2)にも掲載)  |
|        |  |   |  | アは、形や色彩、材料、光などの要素に視点を当て、温かさや軟らかさ、安らぎなどの性質や感情を自分の感じ方を大切に理解する内容です。それに対してイは、対象の全体的なイメージを大きくとらえる内容です。              |